

食品安全情報（化学物質） No. 22/ 2024（2024. 10. 30）別添

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部 第三室
(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

- 世界保健機関（WHO : World Health Organization）<https://www.who.int/>

1. Sarah Cahill 氏の紹介 : FAO/WHO コーデックス委員会の新事務局長に就任

Introducing Sarah Cahill: Newly appointed Secretary of the FAO/WHO Codex Alimentarius Commission

18 October 2024

<https://www.who.int/news/item/18-10-2024-introducing-sarah-cahill-newly-appointed-secretary-of-the-fao-who-codex-alimentarius-commission>

Sarah Cahill 氏が国際食品規格設定機関である FAO/WHO コーデックス委員会（Codex Alimentarius Commission: CAC）の事務局長に任命された。その役割、国連食糧農業機関（FAO）と世界保健機関（WHO）とのつながり、そして食品規格全般について、彼女に話を聞いた。

1. この記事は FAO と WHO の双方から発表されるもので、読者の中にはコーデックスとは何かを知らない人もいるかもしれない。まず、コーデックスについて簡単に説明していただけませんか？

コーデックス（ラテン語 Codex Alimentarius : 「食品法典（英語 food code）」を意味する）は、1963 年の初会合以来、CAC が策定してきた規格（standards）、ガイドライン、実施規範（codes of practice）のコレクションである。その目的は、消費者の健康を守り、食品貿易における公正性を促進することである。これらの規格は、CAC の 189 の加盟国（188 の加盟国と 1 つの加盟機関（欧州連合））が、240 のオブザーバー機関からのインプットを受けて策定している。CAC は規格を設定するだけでなく、食品規制当局や食品バリューチェーンのさまざまな利害関係者を招集し、食品の安全性と品質に関する問題や課題について議論する貴重な多国間フォーラムでもある。

2. どのような経歴の持ち主ですか？

私は微生物学者であり、食品安全分野で 25 年以上働いてきた。国際レベルでは、FAO/WHO 合同微生物学的リスク評価専門家会議（JEMRA）の FAO 事務局で微生物的食

品安全の分野に携わり、コーデックスの規格の策定作業を支える科学的助言の提供や、世界食糧計画（WFP）や国連児童基金（UNICEF）など他の国連機関への科学的助言の提供に取り組んできた。FAO 内では、FAO とコーデックス加盟国に対するリスク評価と科学的助言のアクセシビリティの向上にも努め、FAO 初の薬剤耐性（AMR）に関する行動計画（2016-2020）、能力開発プロジェクト、食品由来の AMR に関する科学的助言の策定を支援してきた。6 年前、私はコーデックス事務局に上級食品規格担当官として入局した。

3. コーデックスにおける FAO と WHO の役割とは？

CAC は FAO と WHO によって設立された政府間組織で、1963 年に最初の会合が開かれた。これは、多様な食品規格の急増とそれに関連する国境を越えた食品貿易の障壁、食品加工産業の増加、食品添加物などの化学物質の使用といった問題に対する、当時の両機関の懸念に応えるものであった。

FAO と WHO は 2 つの分野でコーデックスを支援している。第一は、科学的助言とリスク評価の提供で、コーデックス文書が科学に基づくことを保証している。FAO/WHO の専門家会議は、食品添加物、食品中の化学汚染物質、動物用医薬品や農薬の残留物、微生物的ハザード、栄養について助言を行っている。さらに、FAO と WHO は、食物アレルギー、新たな技術、新たな食物源など、その他の問題を扱うために、特別専門家会議を開催することもある。

第二に、FAO と WHO は、コーデックスの規格策定プロセスへの参加や、コーデックス文書の実施のために、加盟国に技術支援や能力開発支援を提供している。このような支援には、両機関とも、世界的に関連するツールやリソースの開発から、地域や国レベルでの的を絞った支援まで、さまざまなアプローチを用いている。

FAO/WHO コーデックス信託基金(CTF)は、このような支援の仕組みの一つである。2003 年に設立され、WHO が主催する CTF は、FAO と WHO 双方の支援を受けて実施されるプロジェクトにドナー国から資金が提供される。CTF は、中低所得国がコーデックスにより効果的に参加できるよう支援し、コーデックス規格が真にグローバルなものであり、すべての加盟国の参加と合意のもとに作成されることを保証する。CTF は、受益国がコーデックス規格に参加し利用することを可能にする政治的な賛同、規制構造、コーデックスプロセスに対する認識を向上させるのに役立つ知識、技能基盤、国レベルの能力を開発するための支援を行う。コーデックス事務局はローマの FAO に置かれている。

4. コーデックス規格はどのように作成されるのか？

まず、コーデックス加盟国は新規作業提案のレビュー、議論、承認を通じて、作成すべき新しいコーデックス規格に合意する。その後、この新規作業提案は主題別の付随する部会（the subject-specific subsidiary Codex committees）のいずれかに割り当てられて作成が進められる。FAO と WHO には、作成プロセスに情報を提供し、規格が科学的根拠に基づ

いたものであることを確認するため、具体的な科学的助言を求めることができる。規格作成には、8ステップのコンセンサス主導のプロセスがあり、すべての作業に一貫したプロセスが適用されるようになっている。文書は通常3〜4年で作成されるが、早ければ1年、例外的で複雑なケースでは10年かかることもある。

5. 委員会は、食品関連の膨大なトピックに関するさまざまな文書を採択している。それは何を意味するのか？ なぜコーデックス文書がそれほど重要なのか？ また、各国政府はコーデックス文書をどのように利用しているのだろうか？

委員会の活動の成果は、食品の安全性と品質を確保する方法について、科学的根拠に基づき、国際的に合意された最新のガイダンスを提供するオープンソースの文書である。コーデックス規格は、独自の規格を策定する能力が限られている国々にとって有用である。各国はこれらの文書をさまざまな方法で使用する。多くの場合、各国の事情に合わせて法律や規制の基礎として、あるいは、グッドプラクティス、教育研修プログラム、二国間貿易協議の基礎として使用する。

コーデックス文書は自主的な規格ではあるが、食品が国際的に取引される際には、その安全性と品質に関する規格として使用される。これは、コーデックス文書が、世界貿易機関（WTO）の「衛生植物検疫措置の適用に関する協定（SPS 協定）」に基づく食品安全の参照規格だからである。つまり、国際的に取引される食品は、少なくともコーデックス文書に概説されている規格を満たす必要がある。また、食品をめぐる貿易紛争が発生した際には、コーデックス文書が参照され、紛争の解決に役立てられる。コーデックス文書は、WTO の「貿易の技術的障害に関する協定（TBT 協定）」、特に食品表示などの分野においても参照される国際規格のひとつとなっている。

6. コーデックスの活動や重要性を象徴するような、際立ったコーデックス文書を 3 つ挙げていただけますか？

3 つだけ挙げるのは難しいが、1969 年に採択され、2022 年まで定期的に改訂されている「食品衛生の一般原則（CXC 1-1969）」から始めよう。これは食品の衛生的な生産を保証するための重要なガイダンスである。また適正衛生規範（GHP）の基本をカバーしながら、食品の安全性を確保するために開発されたシステムアプローチである危害分析重要管理点（HACCP）を実施するための基礎も提供している。GHP および／または HACCP を適切に実施することは、農場であれ、食品加工中であれ、あるいは外食産業であれ、皿に盛られた食品が安全であることを保証するために極めて重要である。

次に、「包装済み食品の表示に関する一般規格（CXS 1-1985）」について触れたい。この規格は、栄養成分からアレルゲン情報に至るまで、食品包装に表示される情報の調和を消費者に保証するという基本的な役割を担っている。従って、食品の安全性においても重要な役割を果たしている。

そして、汚染物質や食品添加物の最大基準値、動物用医薬品や農薬の最大残留基準値など、数千に及ぶ基準値を挙げたい。これらの定量基準は、食品中のハザードレベルが十分に低く、一生のうちに病気になるほどの量を摂取することがないようにすることを目的としている。

7. 将来の、あるいは新たな問題に対処するために、どのような文書が議論され、あるいは作成されているのでしょうか？

コーデックスでは、進化する世界環境の中で食品規格をとらえ、それに対応していく必要がある。課題に関しては、例えば、気候変動は食品安全を含む多くの分野に影響を及ぼしている。このことは、私たちが新たな規格を策定したり、既存の規格を改訂したりして、その妥当性を確保する必要があることを意味する。11月に開催される第47回コーデックス総会（CAC47）で採択される新たなコーデックス文書の一例は、シガテラ対策に関するものである。シガテラは、従来は世界の特定の地域の岩礁魚に関連していたハザードだが、海水温の上昇により拡大しつつある。その結果、より多くの人々が暴露のリスクにさらされ、従来のリスク管理戦略はもはや信頼できないものとなっている。コーデックスが注目しているその他の分野は、新たな食料源、リサイクル包装、デジタル化である。

8. コーデックスについて同僚に何を知ってもらいたいのか、そして彼らはコーデックスの活動をどのようにサポートできるのか？

コーデックス規格は、おそらく皆さんが毎日口にする食品の安全性に一役買ってきただろう。そして食品は、私たちの多くが取り組んでいることの中心にある。サーベイランスであれ、食品貿易であれ、食品バリューチェーンの開発であれ、栄養学であれ、食品廃棄であれ、気候変動であれ、食品は私たちすべてを結びつけている。ワンヘルスと食品システムアプローチの重要性を認識することで、私たちは、私たちが作成する食品規格の継続的な妥当性と適合性に影響を与える可能性のある相互関連性、相互依存性、行動を特定することができる。

グローバルな課題が増え続ける中、私たちの作業の相互関連性をよりよく理解し、私たち全員が作成する様々なツールやガイダンスがどのようにお互いを補完し、私たちの食品システムが直面している現在および新たな課題に対処するために必要なリソースをメンバーに提供できるかを見極めることは、これまで以上に重要になるだろう。

※関連記事：食品安全情報（化学物質）No. 14/ 2024（2024. 07. 10）

【FAO】Codex

Sarah Cahill が新コーデックス事務局長に就任「構築、支援、開発：共に」

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2024/foodinfo202414c.pdf>

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室